

平成30年度 第1回 伊万里市水道審議会議事録

1. 日 時：平成30年6月15日（金） 15時00分～16時00分
2. 開催場所：水道部内会議室
3. 出席者：
 - (1) 委員：力武委員、川原委員、吉田委員、松永委員、犬塚委員、前田鈴子委員
(崎田委員、桑原委員、前田和幸委員、犬塚委員、富永委員は都合により欠席)
 - (2) 事務局：中里部長、杵嶋副部長(兼)管理課長、原口工務課長、古賀浄水場管理事務所所長、吉永工務副課長(兼)工務係長、末石管理副課長(兼)管理係長、古竹営業係長、小寺浄水係長、鶴田維持係長、山崎水道施設係長
 - (3) 傍聴者：なし
4. 内 容：
 - (1) 開会
 - (2) 水道部長のあいさつ

みなさんこんにちは。水道部長の中里と申します。4月の人事異動で水道部長に拝命しています。よろしくお願いいたします。会議に入る前に4月、5月の人事異動で若干変わっておりますので、ご紹介させていただきます。まず副部長兼管理課長の杵嶋でございます。続きまして工務課長の原口でございます。有田川浄水場管理事務所所長の古賀でございます。よろしくお願います。

改めまして、本日は公私ともにお忙しい中、当審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。皆様方におかれましては日頃より伊万里市の行政、特に水道行政について特段のご理解、ご協力いただきましてお礼申し上げます。

この水道審議会につきましては、条例により、水道管理者の諮問に応じ水道事業に関する重要な事項について調査及び審議をすることとされているところでございます。

今年の3月、前回の審議会におきまして、水道ビジョンについてご審議いただいたところでございますけれども、その際にご指摘等があった点について修正させていただきまして、その後に市民の皆様からのご意見をいただくため、パブリックコメントにかけたところでございます。

本日の審議会では、水道ビジョンに対するパブリックコメントの結果と、併せて水道施設更新計画並びに水道事業経営戦略について、この後担当よりご説明させていただきまして、審議をお願いするものでございます。

皆様方には、説明を聞かれたうえで、忌憚のない意見をお聞かせ願えればと思っております。
 - (3) 会長のあいさつ

こんにちは。委員の皆様には、ご多忙の中にご出席いただきまして、誠にあり

がとうございます。

気候は梅雨に入りましたが、今のところ梅雨らしい雨は見られませんが、梅雨末期にかけて集中豪雨などが心配されますが、大きな災害等が発生しないよう案ずるところであります。

中山間を含め平地でも田植えが終わりかけていますが、植え付けから気候が高く、稲の生育も順調で今年は豊作であればと願っております。

国政では、森友、加計学園問題等での議論が優先し、景気を後押しするような政策議論が進まない状況で、景気は大企業中心に緩やかに回復の兆しがあるものの、国の経済を支えている中小企業の状況は、油を主に原材料の高騰、人手確保に伴う人件費の上昇などで景気状況はマイナスであり、依然として足踏みではないかと思えます。

そうした中に、世界の政治外交は歴史的な米朝会談が行われましたが、実効性には不透明感が強いと思えます。しかし、これから北朝鮮が平和的な外交を進めていけば、経済的には市場拡大につながり、日本の経済にも先々明るいものが見えてくるかもと、個人的には思っています。

さて、今日の会議の資料を見ますと伊万里市の水道事業は大正14年に始まり100数年の歴史があるようです。永い歴史の中には、市民の皆様安全で安心で良質な水道水を安定的に供給できるように、水源地の確保や配水管の設備などに多方面から政策の課題として取り上げられ、これまで事業が行われてきておりますことは、皆様も周知されているところで。

しかしながら、現状から将来に向けては、人口減少、節水器具の普及などにより、先々、水の需要の減少が見込まれ水道経営状況の悪化が懸念されております。

そのような中に、国は平成25年に水道事業者に対して、50年、100年後の水道事業の将来を見据えた水道ビジョンの作成を指導しており、また、厚生労働省も「新水道ビジョン」の3つの主要課題を掲げております。

水道ビジョン策定は、伊万里市の水道事業にかかわる経営戦略、事業更新計画との関わりが深く、時間をかけて進められてきました。

その間、担当部署また関係者にはかなりの労務負担もあったと思えますが、水道ビジョンの位置づけである「安全・強靱・持続」は、市民の生活に欠かせないものと思えます。

本日は、議題にあります3つの項目について審議をしていただきたいと思えます。

これからの議事がスムーズに運びますよう、ご協力をお願いしまして、挨拶に代えさせていただきます。最後までよろしくようお願い申し上げます。ありがとうございました。

(4) 議事

会長による議事進行（質問は最後に一括して受け付け）

①管理副課長(兼)管理係長より水道ビジョンに関するパブリックコメントの結果

について説明（審議会資料P1-2）

②工務課長より水道施設更新計画について説明（審議会資料P3-7）

③副部長(兼)管理課長より水道事業経営戦略について説明

④その他

*各委員からの意見等

・人口減少の中で給水量が減少する見込みとなっているが、今後は売り上げのバランスを考えたときに、節水を呼び掛けていくのか、需要を高めるために（節水の）呼び掛けはしないのか。

・収支バランスを考えた時に、一般家庭でも工場関係でも節水型が普及している、と思うが、トイレも洗濯機も利用量は減少していると感じている。

・人口減少に伴って給水収益が厳しいとか、施設の老朽化、更新事業が非常に高まっているということで、財政基盤が厳しいというのは分かります。

しかし、経営戦略の中にも話がありましたが、もう少し需要をシビアに見て赤字に転落するのがいつの時点になるのか見極めていかないといけないと思う。

・更新計画あたりでも、企業債を活用していくのか、償還金とのバランスで、元金以上に借入れれば起債が増えていくことになる。

水道は、行政としてのサービス向上の面があり、投資額に比べると給水収益は少ない訳ですから、繰出し基準を増やすとか、料金体系をどうしていくのか検討していく必要があると思う。

・更新計画を作成するに当たり、ダムサイジング、スペックダウン、長寿命化とか、そういったものを厳しく見てやっていけば、料金改定も先延ばしできると思う。

どうすれば財源的に余裕ができるのか、厳しく検討したうえで、安易な料金改定はできないので効率化を図った上で料金改定をするということにしていかなないとなかなか議会や市民の皆さんに理解を得られない。

・今後10年間で早急に更新が必要な構造物で浦ノ崎浄水場も上がっていますが、どういったところか。

・財政シミュレーションで、留保資金残高が53年度までプラスとなっているが、それ以降はマイナスになるということか。

・会長より

ほかにございませんか。それでは、なければこれで議事を終わりたいと思います。ありがとうございました。